

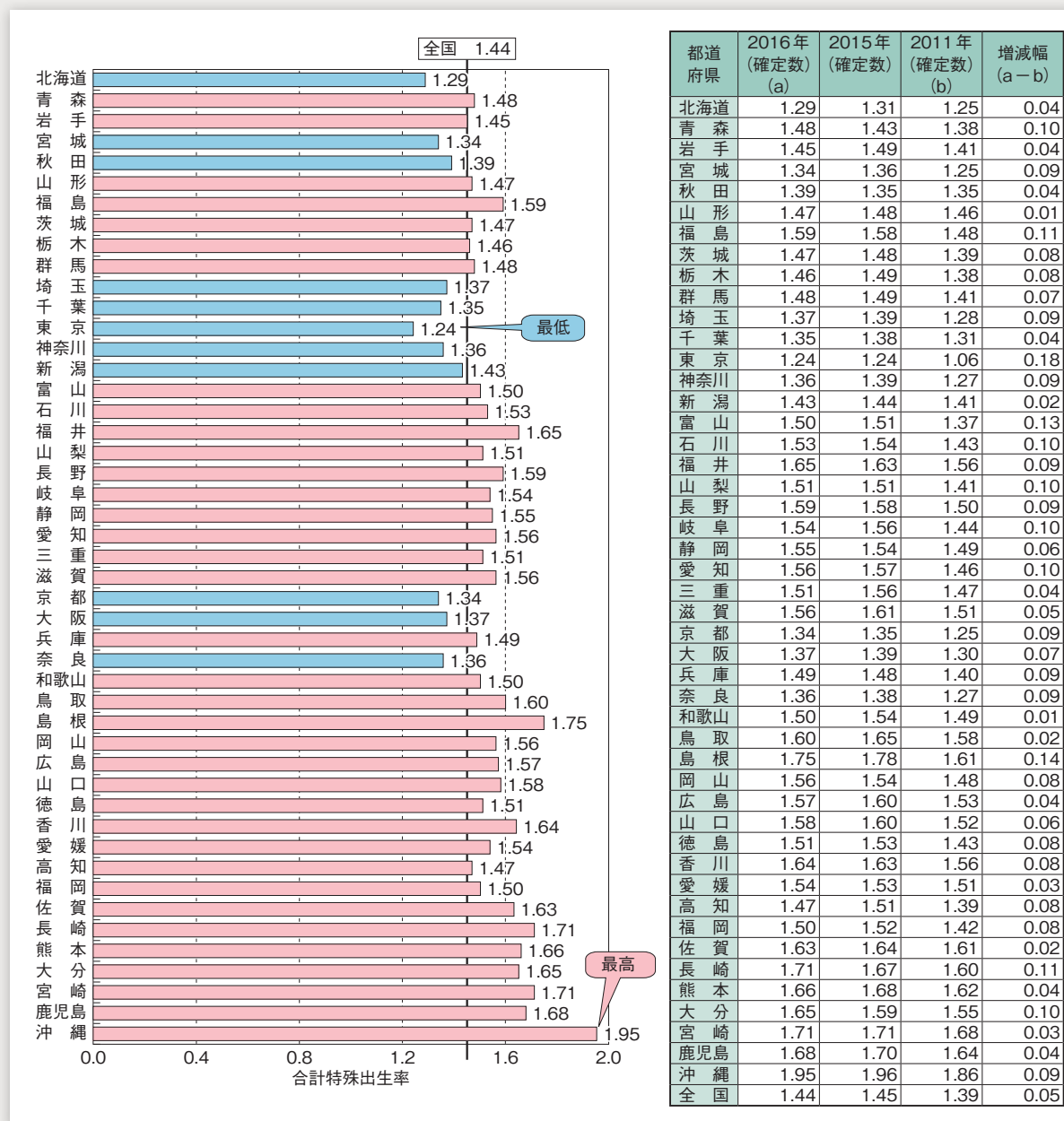
6 地域比較

都道府県別合計特殊出生率の動向

2016（平成28）年の全国の合計特殊出生率は1.44であるが、47都道府県別の状況を

見ると、これを上回るのは36県、下回るのは11都道府県であった。この中で合計特殊出生率が最も高いのは沖縄県（1.95）であり、次は鳥根県（1.75）となっている。最も低いのは、東京都（1.24）であり、次いで北海道（1.29）となっている。（第1-1-29図）

第1-1-29図 都道府県別合計特殊出生率（2016年）



資料：厚生労働省「人口動態統計」

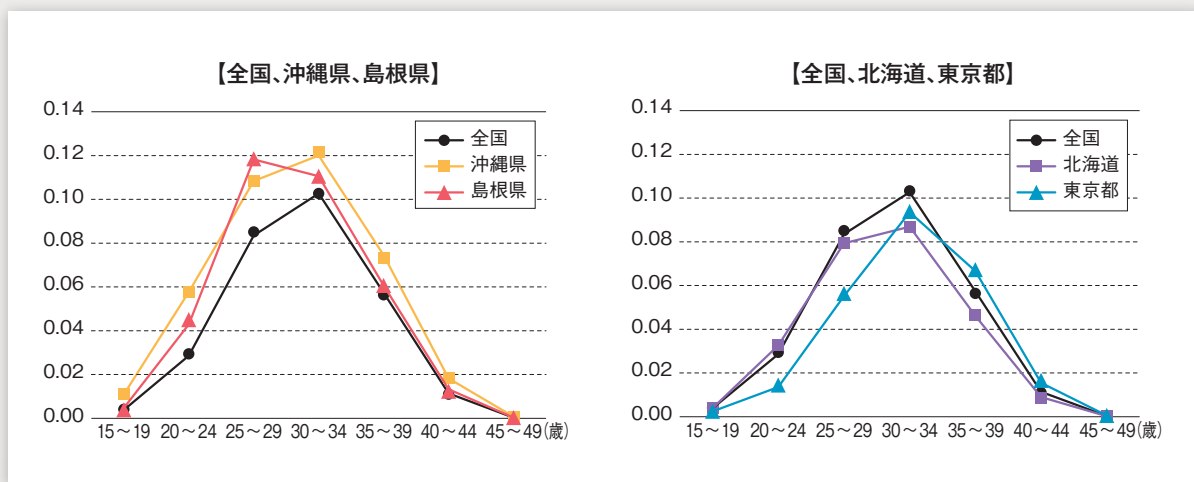
都道府県別の年齢別出生率

都道府県別の年齢別出生率をみると、全国の中でも合計特殊出生率の高い沖縄県、島根県は、いずれも20～34歳の出生率が全国水準よりも高くなっている。

一方、全国の中でも合計特殊出生率が低い

東京都、北海道はそれぞれ異なる動きをしている。東京都では15～34歳の出生率が全国水準より低いのに対し、35～49歳では高くなっている。北海道では15～29歳の出生率が全国水準並となっているのに対し、30歳以降の年齢では低くなっている。(第1-1-30図)

第1-1-30図 都道府県別の年齢（5歳階級）別出生率（2016年）



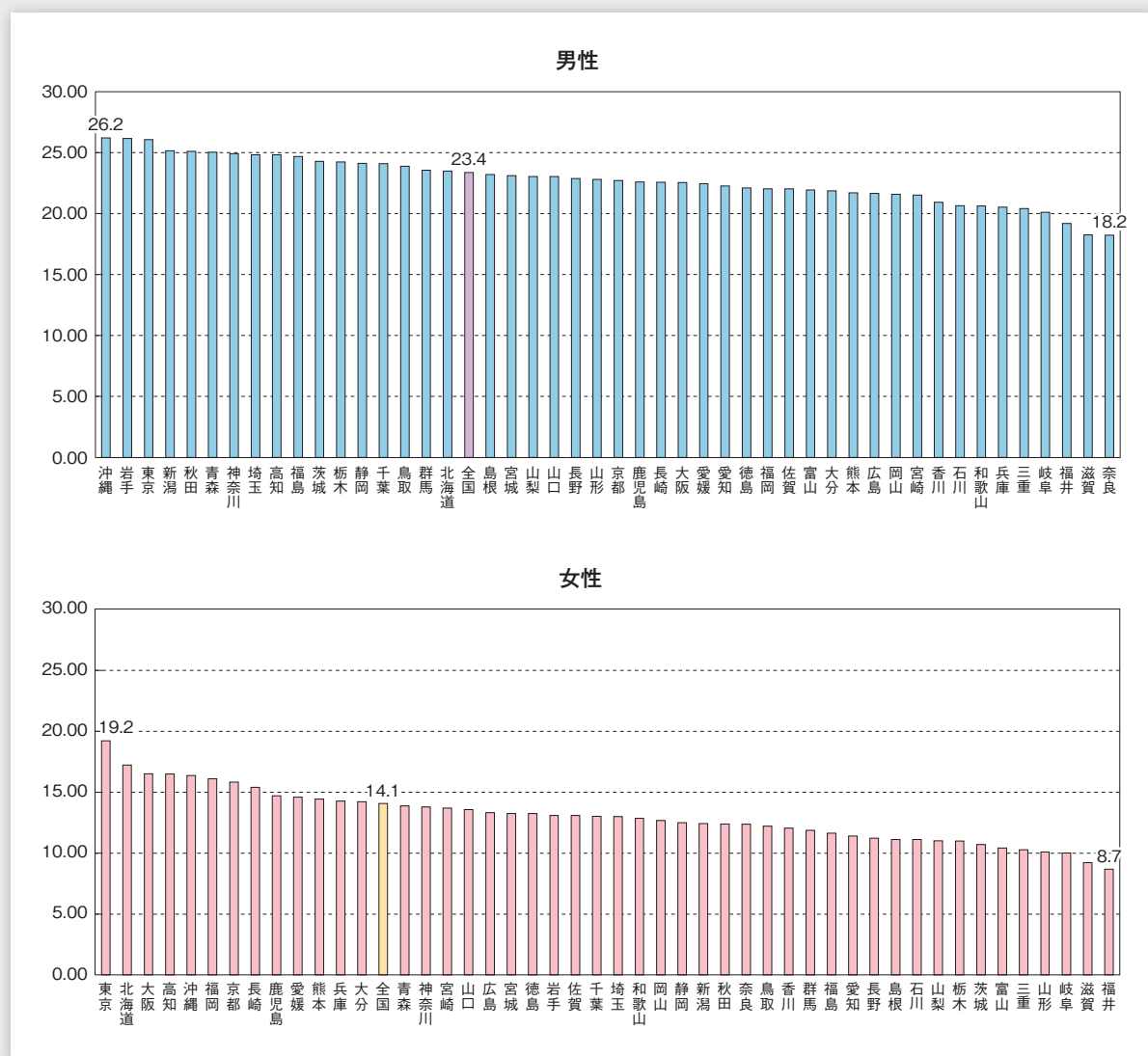
資料：別府志海・佐々井司「都道府県別女性の年齢（5歳階級）別出生率および合計特殊出生率：2016年」『人口問題研究』第73巻第4号、2017年12月、表1を基に内閣府作成。

都道府県別50歳時の未婚割合

2015（平成27）年の全国の50歳時の未婚割合を見ると、男性で23.4%、女性で14.1%となっているが、47都道府県別の状況を見

ると、これを上回るのは男性で17都道府県、女性で13都道府県となっている。この中で50歳時の未婚割合が最も高いのは、男性で沖縄県の26.2%、女性で東京都の19.2%となっている。（第1-1-31図）

第1-1-31図 都道府県別50歳時の未婚割合（2015年）



資料：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集2018」を基に内閣府作成。